

「ねんりん」と共に

板野中学校長 漆原都夫

昨年度300号を達成した「ねんりん」が今年は「ねんりんPARTII」として続刊された。二年団から三年団へと進んでも体制は変わらないからより充実したくないようで継続してくれるものと楽しみにしてはいたが、なんといつても三年担任、特に主任の日々は心身共に激務。その上今年は板野郡同和教育研究大会、徳島県中学校同和教育研究大会と二つの大会を開催し、二回とも全学級公開をしたものだから、事前指導、研究紀要、学習指導案の作成など、忙しいというまいと思つても超多忙の毎日。その中で毎日書き続け昨年を上回る三百三十号に達したのだからすごい。ほんとに仁木先生「忙しくて病気になる暇もない」日々だったといえる。そして内容も昨年以上に読んで読みやすく、生徒の「あゆみ」、先生の独り言など、時には厳しく、時には優しい心配りそして時にはプライバシーの侵害かな？と思うあたりまで踏み込んで先生方の日常や個性を虚実とり混ぜて書かれた仁木先生の文才と努力には頭が下がる。

お陰で生徒や保護者との連携、信頼関係は緊密で最後の進路相談でもお互い納得の上で志望先を決めることができ結果も百パーセント合格と信じている。とかく中学校は進路指導・生徒指導・部活動などで常に時間外勤務を要求され日夜を分かたぬ苦勞をしているのにその努力は理解されずなにかのミスがあるとマスコミや保護者、地域などから非難攻撃されがちである。教師の努力はすぐ目に見えないだけにこの頃のように価値観の多様化とかでどんな理屈でも一理ありと認められ教師の苦勞や正論は無視される。

ともあれ今年の三年生と保護者の方は、二年間、毎日学校の生活や子供の様子、先生の姿がわかっていただけだと思つたがこんな努力をしている先生や学年は県内にも、いや全国にもほとんどないことを知っておいて欲しいもの。

こうした努力で今年の三年生がどれだけ良くなったかの評価は保護者や地域の方々の判断に待つしかありませんが、私にとって教職三十八年、自分が遂に成し得なかったことを最後の二年間で成し遂げてくれた仁木先生と三年団に改めて感謝と敬意を表すと共に、この「ねんりん」で結ばれた三年団の絆が今後とも切れずに続くことを祈っております。